



7月上旬に台湾中部山岳ヘナガラエシナガバエ属 *Diostracus* の調査に行きました。本研究は日本、台湾、中国の研究者との共同研究で、今回は台湾東海大学の大学院生と一緒に調査をしました。

ナガラエシナガバエは、北米と東アジアに隔離分布し、生息環境は主に冷温帯から暖温帯の山地の溪流と

いう限定された場所です。起源は古く、第三紀に北半球に広域分布していたものが、第四紀の氷期にそれぞれの大陸で山伝いに南下し、山地の溪流で生き延び、このような隔離分布になったものであろうと考えられています。しかし、このハエの化石を得るのは困難で、このことを証明するのは難しいことです。そこで、

現在のハエの分布とそのDNA塩基配列を用いた系統解析により、分化時期・分散経路・生息環境を推定しようと考えています。これにより、遠く離れた台湾の山奥のハエと日本のハエの歴史がつながり、身近なハエの壮大な歴史が実感出来ることでしょう。

◀合歡山(標高3417m)。ナガラエシナガバエは水飛沫のかかる石の上にいる



植物などの細密画を描くようになったのは、10年ほど前に野外観察をしているときでした。植物の特徴を覚えたり後で図鑑で調べられるようにスケッチをとるようになったのがきっかけです。最初は花びらの付き方や雄しべ雌しべの形、葉の付き方や鋸葉の出方など一部をスケッチしていましたが、全体を描くようになり、5年ほど前から彩色をするようになりました。

植物を見て観察しながら描くので、描いている途中で植物が枯れてしまったり年に続きをやったりと時間がかかりました。昆虫の標本をつくる仕事の関係から昆虫も描くようになりました。動きのあるものは標本だけでなく、野外での観察や写真なども参考にしています。これからもいろんな植物や昆虫などを描きとめていくのが私の夢です。

利用者
の
声

ディスカバリールームには子どもたちが、さまざまな不思議を体験し学習するためのコーナーがあります。今回は担当者の松尾 知(囀託)に利用者の方々の反応について話を聞いてみました。

ディスカバリー・ルームのカウンターはいつもにぎわっていますね。

ここは、ディスカバリー・ボックスの貸出し場所になっていて、とても人気のコーナーなんです。

どのボックスがよく利用されますか？



日本のおもちゃ



種あかし

だいたいどれも人気ですが、「骨格を組み立てよう」や「日本のおもちゃ」「土器パズル」などが特に人気です。

どんなふうになさって使っていますか？

使い方は借りる方の数だけあります。使い方は限定されていないので、表示してある使い方だけではなく、自分で新しい使い方を発明したり、「自分ならではの！」の利用方法で楽しんでいらっしゃいます。

子どもたちのおもしろい反応はありますか？

「骨格を組み立てよう」(人のレプリカの骨格標本がつまったボックス)で、3歳くらいの男の子が「...これ、だれか死んだの？ だれの骨？」と恐る恐るつぶやいていた。パズルなど完成させた時のニコニコ顔を見ると、こちらもうれしくなってきますね。

ボックスはいくつくらいあるのでしょうか？

いつも30種類くらいです。内容はいつも同じではなく、新しいボックスがデビューしたり、利用者の反応によってボックスの中身が改良されたり、常に変化しています。それに気付いてもらえた

時は、スタッフとしてやりがいを感じますね。ディスカバリー・ボックスだけでなく、その他の展示も季節によって変化しているんですよ。利用者の方も季節に合わせて、展示を楽しんでいらっしゃいますね。



骨格を組み立てよう